

「外科医の労働環境と職業満足度に関する日米比較研究」

～消化器外科医をとりまく環境の国際的理解と持続可能な支援体制構築を目指して～

1. 背景・目的

日本消化器外科学会では、外科医不足や若手医師の外科離れといった課題を背景に、消化器外科医を取り巻く環境に関する大規模なアンケート調査を実施しました。本調査は、外科医の長時間労働やキャリア選択を阻害する要因を明らかにし、労働環境の改善と社会への情報発信を目的とした、極めて貴重な取り組みであります。

本研究では、この貴重な調査結果を基盤として、「**外科を選び、継続し、次世代にも勧めたい**」と思えるような**労働環境に関する要因**を抽出し、**日本と米国の比較**を通じて共通課題と地域特有の背景を明らかにすることを目的としています。

特に近年、米国においてもワークライフバランスが若手医師のキャリア選択における最重要要素とされており、こうした国際的な潮流を踏まえ、持続可能な外科医支援のあり方を検討することは、国際的にも意義をもつと考えております。

2. 方法

本研究は、日本および米国の外科医を対象としたアンケート調査を比較・分析する国際共同研究です。

日本側データ：

すでに日本消化器外科学会にて実施された、外科医の働き方に関するアンケート調査結果(日本語論文文化済み)を倫理的配慮および匿名性の確保のもと、二次的に活用いたします。

米国側データ：

SSAT(Society for Surgery of the Alimentary Tract)やSSO(Society of Surgical Oncology)等の関連学会を通じて、日本の調査項目をもとに英訳したアンケート調査を実施予定です。必要に応じて、米国の医療制度や文化的背景に即した補足項目を追加いたします。

3. 期待される成果

- ・日本と米国における外科医の労働環境・職業満足度の違いや共通点の可視化
- ・外科医のキャリア継続・定着に向けた、制度的・文化的支援の提案
- ・国内外学会での成果発表および論文文化を通じた提言の発信

2025年8月12日

日本消化器外科学会

ワーク・イン・ライフ委員会